

# 一般財団法人国土技術研究センター 第31回 技術研究発表会

2017年7月7日（金） イイノホールにて

## 第31回 技術研究発表会について

一般財団法人 国土技術研究センターは、国民生活の向上や国土の適正管理及び有効利用の実現を目指して幅広い調査・研究を行うことで、国土交通行政を先導・補完することを目的として、昭和48(1973)年に設立された政策提言集団である。この調査・研究の成果を、広く国民の皆様に還元することは一般財団法人の役割として極めて重要であることから、公益事業の一環として、昭和62年から毎年「技術研究発表会」を開催している。

第31回目となる今回は、まず「オープンIoTで土木建築分野はどう変わるか」と題して、世界的第一人者であり当センターの研究顧問である、坂村 健先生（東洋大学 情報連携学部長 / YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所長）に特別講演をいただく。

引き続き、国土技術研究センター職員が、河川、都市・住宅・地域、道路、技術・調達の4部門から6つの発表を行う。河川

部門では、昨今、全国で相次ぐ大規模水害を背景とした「水害リスクマネジメントの現状と展望」及び堤防上に降った雨水が原因で法崩れなど被災した事例を分析し対応策を提案した「河川堤防の雨水排水による被災と対応」を、また道路部門では、今後のわが国エネルギー政策を踏まえた「高速道路における天然ガスパイプライン設置に関する技術的課題の検討」及び舗装の長寿命化手法として新たに導入が始まっている「アスファルトの長期保証」を、さらに、都市・住宅・地域部門では、3年後の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて研究した「建築物のバリアフリー化の促進に向けて」を、そして技術・調達部門では、工事記録映像を監督・検査業務や安全管理等に活用しようとする新たな試みとして「工事記録映像の活用に関する研究」を発表する。

いずれも当センターの自主研究を中心に、これまでの間に検討を進めてきたテーマである。今後、さらに研究を深化させ、当センターの国土交通行政の先導・補完という役割を着実に果たしていく所存である。

（野田 徹 業務執行理事）

